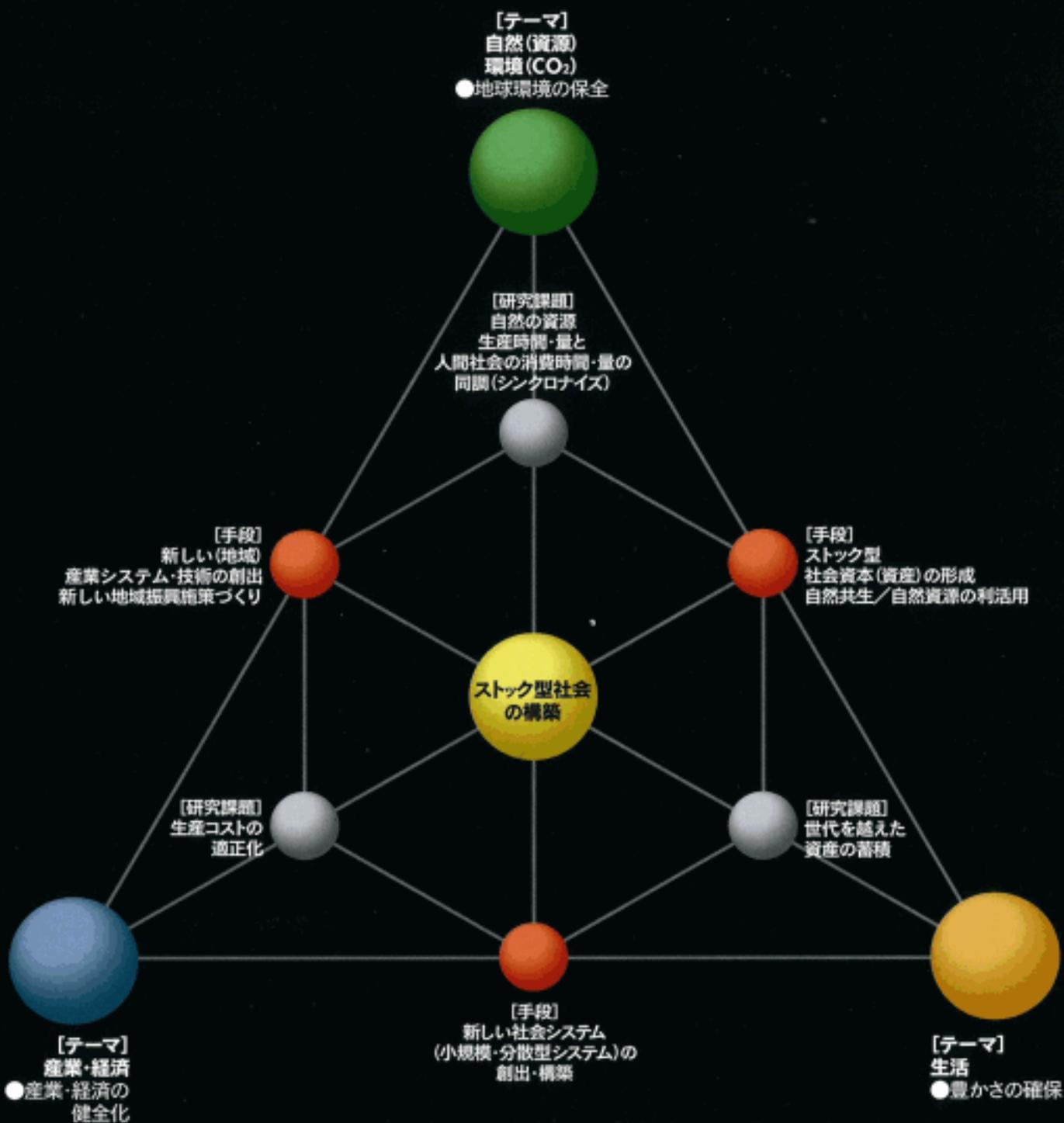




次世代システム研究所が
めざす21世紀の地域社会形成
環境・経済・生活の調和



長寿命化

《政策研究・提言》
日本をストック型社会に
するための研究

実現するための
技術

実現するための
政策

《実践》

1. 地域の自然資源・環境と
地域産業・経済の調和
2. 生活の豊かさで健全な
地域産業・経済の形成
3. 地域の自然資源・環境と
生活の豊かさの確保

次世代システム研究所のコンセプト

日本社会の課題

日本社会は、モノの寿命が短くて、
ストック(資産)が蓄積されない社会だからです！

私達はこう考える

日本の21世紀のために

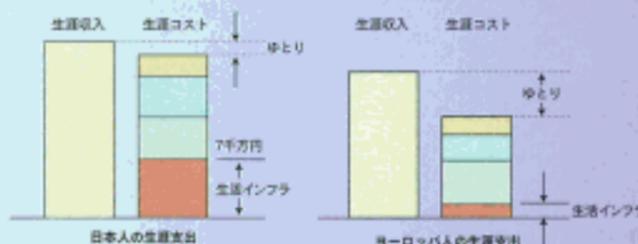
日本社会のインフラ・あらゆるモノの寿命を長くし、
世代が進む度にストック(資産や資源)が蓄積されていく
社会に変えていきます。

人間社会と地球環境が調和し、持続していくためには「ゼロエミッション社会の実現」だけで十分と思いませんか？



資源の循環[生産・消費・分解のサイクル]は地球規模で収支がバランスしています。そのため、人間が消費した廃棄物への対応だけでは不十分で、地球/自然が生産する資源の時間・量と人間が消費する資源の利用時間・量とを同調(シンクロナイズ)することが、人間社会と地球環境を持続させるために不可欠です。

個人所得は世界トップレベルなのに生活に豊かさが感じられないのは何故でしょうか？



収入が高くて支出が高ければ本当の豊かさはありません。日本社会は、生活に必要なモノの寿命が短くて、次々にモノの作り直し・買換えをしなければなりません。だから生活コストが高くなり、生活に豊かさが感じられないのです。

労働生産性、品質、技術力は世界トップなのに日本の産業の国際競争力が低下するのは何故でしょうか？



日本の産業はコストにおいて国際競争力の低下を来しています。日本の産業の生産コストが高いのは資金が高いからです。資金が高いのは生活コストが低いからです。しかし、安易に資金レベルを下げれば経済も回転せず、生活不安が一層増します。

地球/自然が生産する資源の量と人間が消費する資源の量を同調(シンクロナイズ)させるための理論やシステム(方法)を研究し、実践していきます。

世代が進む度に資産が蓄積され、国民の生活が豊かになっていく理論とシステム(方法)を研究します。

ストック型社会と健全な産業・経済の関係を研究します。

- ストック型社会への転換による新たな産業創出の方法を研究します。
- ストック型社会の産業連関やマクロ経済構造を研究します。

ストック型社会への転換シナリオ(社会科学的対応)を設計します。

- 税制/諸制度、転換インセンティブ
- 都市系転換シナリオ、各産業系転換シナリオ

ストック型社会の具体的なイメージを設計します。

- ロングライフ型都市の設計ルール (Ex.物理的寿命、都市機能、景観、自然共生、発展的変化対応、外的インパクト対応)
- ロングライフ型モノの設計ルール

次世代システム研究所がめざすもの

戦後日本が構築してきた資源・エネルギー大量消費型、フロー型(短寿命)の経済社会システムは、

1. 地球環境の劣化、資源・エネルギーの枯渇
2. 高賃金にもかかわらず生活支出が高いことによる欧州先進国に比へた生活の質の低さ
3. 高賃金に起因する高生産コストによる日本産業の国際競争力の低下

など様々な領域において構造的な問題を惹起させています。

これらの問題は、個々の領域において個別に問題提起、現状分析、解決のための提案が行われ、その一部については具体的な展開も行われています。

しかし、これらの問題群は、フロー型(短寿命)社会構造という「共通の根源」に端を発しており、個々の領域で問題解決(部分解)を図っても全体の最適

解とはなりません。

本研究は、こうした状況を変えていくための研究と実践を行うことを目的として設立されました。

- 現在のフロー型(短寿命型)の社会構造からストック型(長寿命型)の社会構造へ移行していくために必要な論理の整理、手法、障害となる様々な技術的、社会的、制度的諸要因を明らかにし、転換へのシナリオを示すとともに、21世紀への人間社会の持続的発展のための提言を行っていきます。
- 同時に、上記の研究成果を取り入れ、地域における自然資源・環境、地域産業、豊かな生活の調和がとれた新しい地域システムの創造と実践を行っていきます。

次世代システム研究所の役割

学校法人としての特徴を活かし、産業界、学会、国・自治体と幅広い関係と連携を持ちながら、地域から国への政策提言および地域の資源・環境、産業、生活の豊かさを持続させていくための調査・研究・プランニング

久世論形成を行う地域に根ざしたシンクタンクとしての機能を果たしていくことが、当研究所に課せられた役割と考えています。

政策提言のための研究

1. 資源の再生産時間・賦存量と人間社会における資源使用時間のギャップが地球環境に与える影響に関する調査研究
2. 社会資本・耐久消費財の短寿命性が日本人の生涯支出および生活内容時間に及ぼす影響に関する調査研究
3. 社会資本・耐久消費財の短寿命性に起因する生産コストの高さが産業の国際競争力に与える影響に関する調査研究
4. ストック型社会移行への現状の技術的問題と実現化方策の研究
5. ストック型社会移行への現状の社会科学的問題と実現化方策の研究
6. ストック型社会形成による環境、経済、生活への波及効果に関する分析

地域研究・計画

1. ロングライフ型のまちづくり
ロングライフの設計を織り込んだ、地区再開発計画、商店街活性化計画
2. 地域環境の改善・再生・保全を組み込んだ地域産業の活性化
3. 生物多様性を維持したまちづくり
4. 地域エネルギー開発
風力発電、バイオマス、小水力、コージェネレーションシステム
5. 産業エコシステム
6. 地域内資源循環システム
木質系廃棄物の資源循環システム、地域生産ー地域消費システム



次世代システム研究所スタッフ

研究所長	岡本 久人	
研究顧問	平澤 淳	(政策研究大学院大学教授)
	井村 秀文	(名古屋大学大学院教授、(財)地球環境戦略研究機関北九州所長)
	小野 勇一	(九州大学名誉教授、北九州市立自然史博物館長)
主任研究員	秋元耕一郎	((財)日本立地センター調査部長)
客員研究員	川井 秀一	(京都大学木質科学研究所教授)
	神代 雅晴	(産業医科大学産業生体科学研究所人間工学研究室教授)
	松本 亨	(北九州市立大学国際環境工学部環境空間デザイン学科助教授)
	西尾 一政	(九州工業大学工学部物質工学科助教授)



次世代システム研究所
 〒805-0059
 北九州市八幡東区尾倉二丁目6番1号
 電話:093 661 8772
 FAX:093 663 1612